

ひかりのこ

3月園便り

聖ミカエル幼稚園
2014年2月21日発行

月主題：喜びにみちて

いよいよ3月。すずらんさんの旅立ちの時が近づいています。すずらんさんは幼稚園での最後の総仕上げをしながらも、4月からの小学校への準備を始めています。こんなに笑顔がかわいくて、頼りになって、ちょっと甘えんぼうで、年下の子たちにとっても優しいすずらんさんたちと、もう少しでさようならをしなくてはいけないのだ、と思うと「時間が止まってくれればいいのに…」と思うこともよくあります。ひまわりさんの時に比べ、すずらんさんになると、横のつながりが強くなり、みんなで協力し合って課題を一つ一つ解決していくようになりました。先日ですずらんさんがお雛様を飾ってくれましたが、箱に印刷されている見本の写真を見ながら、「この太鼓を持っているのはこの真ん中の人みたいだなあ。」「どれどれ、本当だ!」などと話し合いながらみんなで力を合わせて7段のひな壇を飾ってくれました。動き一つ一つがとっても立派で子ども達の成長を感じました。2月には小学校の先生方が幼稚園の保育の様子を参観してくださいました。先生方が口々に、「年長さんがこんなに何でもできるとは思いませんでした。小学校1年生になると、急に小さい子として扱われるけど、初めからもう少し高いレベルでも大丈夫なことがわかりました。」とおっしゃっていました。

さて、すずらんさんのお父さんお母さんにとっても、子育ての一段階が終わりです。よくこんなに素敵なお子さんにお育てになりました。でも子育て全てが順調なわけではなく、いろいろな悩みを克服しながらの6年間であったと思います。まだまだ子育て期間は続きますが、基本は同じです。お子さんが将来にわたって、人々に愛され、幸せに生活できること、そのために親として何をすべきかを考えることです。そうすると、「じゃあ幸せってどういうことだろう?」ということも改めて考えることになりますね。こすもすさん、ひまわりさんのお母さん、お父さんも同じです。お子さんの成長を通して、自分たちの生き方を問うてみる、そうして親も成長していくのだと思います。最近になって、私はよく夫とこの点について話しています。そして、「親になれて本当によかった。こんな適当な私たち、親にならなかつたら。どうなっていたことか。私たちが成長させてもらえたね。」と話合っています。誰もが親になるわけではありません。親になる選択をしない方もいますし、なりたくても様々な事情でなれない方もいます。人はそれぞれです。でも、親になった人は、神様からいただいた大切な人生として責任をもって子どもを育て、子育てによって自分自身を高めていこうではありませんか。

園長 渡部 良子

キリスト教保育

アメリカのオバマ大統領の就任式で、お祈りを導くほど尊敬されている、リク・ウォーレンという牧師がいます。彼の著書に「目的が導く人生」という有名な本がありますが、その内容の中に次のような言葉があります。「幸せな人生を追求する人生の目的を持っている人は、すでに幸せな人生であると言えます。なぜならば、ある人が求めている目的こそが、その人の人生を導いて行く最高の動力(エネルギー)であるからです。例え、ある人の人生が引き続き失敗ばかりを繰り返していても、もし、その人が幸せな人生を生きるための目的を持っている人であるならば、その人の人生は決して失敗の人生とは言えません。なぜならば、その人はいまだ、幸せな人生をいきるための目標に向かって着実に進んでいる‘過程’の中にあるからです。

トライアルアンドエラー [trial and error]、即ち、試行錯誤は目標に向かって着実に‘進んでいる証拠’であって、失敗の証ではありません。ですから、人生の目標があっても、その目標に向かって進む歩みを諦めない人は、失敗があっても、挫折があっても、それは、あくまでも、‘過程’であって、終わりはありません。”人生にはいろいろなことがあります。時に成功の喜びがあれば、時に失敗の悔しさもあります。何時までも花道ばかりを歩む人生などはありません。いや、ありえません。大事なことは、それにも関わらず、今日も歩み続けることです。ただ、耐えることだけでなく、目標に向かって着々と歩み続けることです。進むべきゴールがあっても、諦めず歩み続けているなら、私たちはいつまでも‘過程’の中の人です。トライアルアンドエラー [trial and error]、即ち、試行錯誤はあっても、失敗はない人生を歩めるのです。ミカエル幼稚園に連なる皆が人生の目的をもって生きる人生になりますように、そして、その目的を神様の愛の中で見いだすことができますように。

チャプレン 司祭 ジョシュア 李 香男